国際ボディパーカッション教育学会
設立記念 セラピー研究大会

テーマ
「ミュージックセラピーとボディパーカッション教育の活用」

ボディ
パーカッション

×

ミュージック
セラピー

講師　山田俊之
ボディパーカッション教育考案者

特別講師　丸尾直史
音楽家・作曲家

日程：2025年9月27日（土曜)13:00〜16:30

会場：国立オリンピックセンター記念青少年センター
センター棟３１１号室
（後日アーカイブ配信あり）

参加案内
参加費：無料（学会設立記念のため）
対　象：医療・教育・福祉・音楽療法分野の専門職、
研究者、学生

詳細・申込はこちらから
https://peatix.com/event/4575584

主催：一般社団法人ボディパーカッション教育振興会
共催：国際ボディパーカッション教育学会
後援:のぞえの丘病院

開催趣旨

音楽療法（ミュージックセラピー）は、欧米では医療・福祉・教育分野で専門職として社会的に確立され、科学的エビデンスに基づく臨床実践が展開されています。

一方、日本では制度面・認知度の面で発展途上にあります。
本研究会では、日本発の実践である「ボディパーカッション教育」を切り口に、音楽療法のセラピー的効果を再検討し、国際的視座からの展望を共有します。

プログラム

①13:00〜14:30　実技ワークショップ

講師：山田俊之（ボディパーカッション教育考案者）

・福岡県久留米市児童思春期病棟での5年間の集団療法実践

・ウィーン、ニューヨーク、ロンドンの公的福祉施設における国際的事例

②14:40〜15:00　実践報告

発表：渡邉彩子（認定ボディパーカッション教育指導者B級）

・療育・がん患者支援における実践報告

・がんサバイバーとしての視点から音楽療法的効果を検討

③15:10〜16:00　基調講演

講師：丸尾直史（音楽家・作曲家）

「国際的視野で見るミュージックセラピーの展開と、ボディパーカッション教育の共通項」

欧米の音楽療法資格制度・臨床実践と日本の課題

④16:10〜　質疑応答・シンポジウム

登壇者：山田俊之 × 丸尾直史

講師プロフィール

講師　山田俊之
九州栄養福祉大学こども教育学部教授
ボディパーカッション教育考案者

九州栄養福祉大学こども教育学部 教授。九州大学大学院人間環境学府博士後期課程修了。

研究分野
　ボディパーカッション教育学、特別支援教育学、リズム運動療法。
1986年に小学校教師として「ボディパーカッション教育」を考案。1996年より養護学校（知的障害）、1997年より聾学校（聴覚障害）において実践を開始。音楽活動を通じた情動調整、コミュニケーション支援、社会的スキル向上に関する教育的効果を研究している。

　実践面では、2001、04、06年NHK交響楽団コンサートマスター篠崎史紀氏と連携し「特別支援学校生徒とNHK交響楽団の共演」を企画・指導。また、2019年NHKみんなのうた「パプリカ 」フーリン 楽団で障害のある子どもたちへの指導を担当。
2024年みんなの歌「ボディパ」で聴覚障害の子供たちと権利の子供たちと一緒に監修指導。

特別講師　丸尾直史
音楽家・作曲家

3歳からピアノを学び、尚美学園大学作曲専攻を卒業後、ウイーンで現代作曲技法や音楽療法を研究。欧米の音楽療法や国際交流の経験を活かし、国内大学や医療学会などで特別講義を行う。一般社団法人ボディパーカッション教育振興会理事

　作曲では国内外のコンクールで入賞し、合唱・器楽・吹奏楽など幅広く作品を発表。アルバムは海外でも紹介され、バチカンのミサでも演奏された。

　現在は国際親善音楽交流協会会長、日本ベートーヴェン協会理事などを務め、音楽とボディパーカッションを通じた国際交流事業に取り組んでいる

国際的活動

2017・2018年 ウィーン国立歌劇場、2019年 ニューヨーク・カーネギーホールにて作品発表。2023年 オックスフォード大学シェルドニアン・シアターにて研究発表を行い、高い評価を得る。

臨床応用

現在、のぞえの丘病院（児童思春期入院病棟）において「ボディパ療育メソッド」を導入し、集団療法的プログラムとして情動の安定化や対人関係スキルの向上に取り組んでいる。